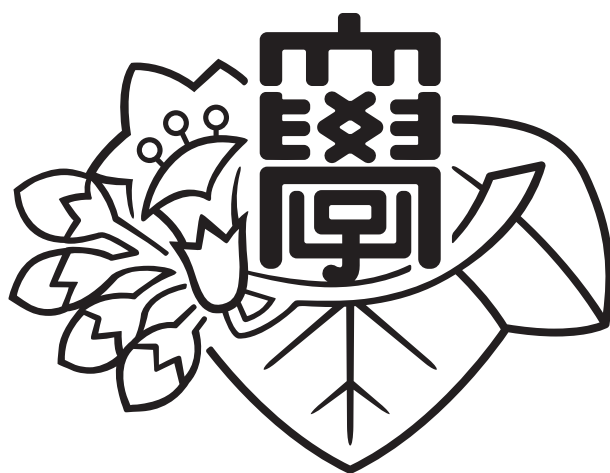


2027
令和 9 年度

学校推薦型選抜学生募集要項



令和 8 年 9 月
岩 手 大 学

目 次

I	岩手大学入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）	1
II	募集人員	18
III	出願要件・選抜方法等	19
IV	受験上の注意	28
V	不正行為	28
VI	入試過去問題活用宣言について	29
VII	障がい等を有する入学志願者との事前相談	29
VIII	出願手続	31
IX	検定料免除	32
X	合格者の発表	32
XI	入学手続等の概要	33
XII	合格者の留意事項	34
XIII	他の入試への出願	34
XIV	長期履修制度	34
XV	個人情報の取り扱い	35
XVI	出願書類等の記入要領及び志願票記入例	35
XVII	教育実習に関する留意事項について	40
XVIII	建物配置及び試験場案内図	41

同封している出願書類

志願票

出願理由書

写真票・受験票・入学検定料納入確認票

払込取扱票・振替払込請求書兼受領証・振替払込受付証明書（お客さま用）

ラベル票

受験票送付用封筒

推薦書

出願書類等提出用封筒

I 岩手大学入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

1 岩手大学入学者受入の方針

岩手大学は、地域における知の府としての役割を果たす教育研究の場として、国際的な視野を持ち、幅広い教養と深い専門性を備えて持続可能な共生社会の形成に寄与する人材の育成に取り組んでいます。

そのために、高等学校等における幅広い学びから育成される基礎的な知識と思考力に加えて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

- 真理の探究や課題の解決に向けて主体的に取り組む姿勢
- 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップ
- 自然や人を思いやる心と倫理性
- 豊かな発想とチャレンジ精神、そしてコミュニケーション能力

入学者の選抜は、一般選抜（前期日程・後期日程）、総合型選抜（Ⅰ・Ⅱ・私費外国人留学生選抜）、学校推薦型選抜の各選抜区分により実施します。（編入学試験を除く。）

各選抜にあたっては、学力の3要素（（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度（主体性・多様性・協働性））を多面的、総合的に評価します。

2 学部別入学者受入の方針

人文社会科学部

1 学部概要

人文社会科学部は、グローバル化の下で著しく変化する現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と、人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会及び国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目指しています。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学部共通》

（1）知識・技能・理解

人間・文化・社会・環境に関する基礎的知識・技能を有し、物事を論理的に考えることができる人

（2）思考力・判断力・表現力

多様な考え方、異質なものの見方を理解しようとする柔軟な姿勢を持ち、物事を多角的に捉えるとともに、自分の考えを適切に表現し、それを積極的に発信できる人

（3）関心・意欲

人間・文化・社会・環境のあり方とそれらをめぐる諸問題について強い探究心と広い観点から学ぶ意欲を持つ人

（4）主体性・協働性

地域社会・国際社会の諸問題に実践的に取り組み、周囲の人々と協働しながら問題の解決を図ろうとする人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《学部共通》

- ・ 国語：読解力及び自分の考えを表現できる作文力
- ・ 英語：基本的な読解力・リスニング力・会話力・作文力
- ・ 地歴・公民：日本及び世界の地理・歴史・社会制度・社会思想などに関する基礎的知識と社会事象に対する関心
- ・ 数学：数学の基本的な概念を理解し、論理的に思考する力
- ・ 理科：日常生活や社会に見られる科学的な事象に対する基礎的知識
- ・ 情報：情報社会と情報通信技術、データ活用に関する基礎的知識
- ・ 高校生活全般：他人と積極的に関わることのできるコミュニケーション力

※ 具体的な履修要件や入試科目は、選抜区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

4 入学者選抜の基本方針 《学部共通》

(1) 一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストでは「知識・技能・理解」「思考力・判断力・表現力」を評価し、教科・科目に係る個別テストでは「知識・技能・理解」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を評価します。

(2) 一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストでは「知識・技能・理解」「思考力・判断力・表現力」を評価し、小論文では「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を評価します。

(3) 学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課さない）

小論文では「思考力・判断力・表現力」を評価し、面接では「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲」「主体性・協働性」を評価します。また、出願理由書では「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲」「主体性・協働性」を、調査書では「知識・技能・理解」「主体性・協働性」を確認します。

(4) 私費外国人留学生選抜

小論文では「思考力・判断力・表現力」を評価し、面接・出願理由書では「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲」「主体性・協働性」を評価します。また、日本留学試験では日本語に関する基礎的能力を含めて「知識・技能・理解」「思考力・判断力・表現力」を評価します。

【人間文化課程】

1 課程概要

人間文化課程は、多様な固有文化を育み、歴史的に継承されてきた地域のあり方と、そこに暮らす人間の行動を多角的に学修し、グローバル化を踏まえた地域づくりと住民の心身両面の健やかな生活に貢献できる人材、及び地域の来歴を踏まえ、文化を世界に向けて発信できる人材を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）

(1) 知識・技能・理解

人間・言語・文化・芸術・スポーツについて学ぶための基礎的知識・技能を有し、物事を論理的に考えることができる人

(2) 思考力・判断力・表現力

多様な特性をもつ人間・言語・文化・芸術・スポーツをめぐる諸現象を多角的に捉えるとともに、自分の考えを適切に表現し、それを積極的に発信できる人

(3) 関心・意欲

人間・言語・文化・芸術・スポーツをめぐる諸問題について地域及び世界双方の広い観点から学ぶことに高い関心を持つ人

(4) 主体性・協働性

人間・言語・文化・芸術・スポーツに関する学修を実践に活かし、周囲の人々と協働しながら地域社会・国際社会の諸問題を解決しようとする強い熱意を持つ人

【地域政策課程】

1 課程概要

地域政策課程は、東日本大震災の復興から、未来のモデルとなる持続可能な社会づくりへの道筋を見据え、地域創生・地域マネジメントへの課題に、法学・経済学・環境学それぞれの分野の学修を軸としながら、総合的視点から取り組むことのできる人材を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）

(1) 知識・技能・理解

法学・経済学・環境学について学ぶための基礎的知識・技能を有し、物事を論理的に考えることができる人

(2) 思考力・判断力・表現力

複雑に絡み合う法・経済・環境をめぐる諸現象を多角的に捉えるとともに、自分の考えを適切に表現し、それを積極的に発信できる人

(3) 関心・意欲

現代の社会をめぐる諸問題について、法学・経済学・環境学の広い観点から学ぶことに高い関心を持つ人

(4) 主体性・協働性

法学・経済学・環境学に関する学修を実践に活かし、周囲の人々と協働しながら地域社会・国際社会の諸問題を解決しようとする強い熱意を持つ人

<別表> 選抜に活用する評価方法とその評価項目

(1) 選抜に活用する内容

入学者 選抜方法	該当選抜区分	選抜内容
小論文	一般（後期）	提示した問題・課題を通して、「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」に関する基礎的な能力を判定する。
小論文	学校推薦型 私費外国人留学生	提示した問題・課題を通して、「思考力・判断力・表現力」に関する基礎的な能力を判定する。
面接	学校推薦型	推薦書・出願理由書・調査書に関する質疑を行うことによって「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲」「主体性・協働性」について判定する。
面接	私費外国人留学生	出願理由書に関する質疑を行うことによって、「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲」「主体性・協働性」について判定する。
出願理由書	学校推薦型 私費外国人留学生	本学部を志望する理由を、これまでの勉学や様々な活動を通じて育まれた問題意識、本学部の教育内容、大学卒業後の希望進路などを踏まえて記入する。「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲」「主体性・協働性」を判定する際の1つの資料にする。
調査書	学校推薦型	高等学校での科目の履修状況に加えて、教科外活動の状況やボランティア活動・プロジェクト活動など校外での活動、各種の資格・免許取得なども評価対象とする。「知識・技能・理解」「主体性・協働性」を判定する際の1つの資料とする。

(2) 選抜に活用する内容の重点評価項目

学力の3要素・評価項目 選抜方法等		(1) 知識等	(2) 思考力等	(3) 主体性等	
		知識・技能・理解	思考力・判断力・表現力	関心・意欲	主体性・協働性
大学入学 共通テスト	一般（前期）	○	○		
	一般（後期）				
教科・科目に 係る個別テスト	一般（前期）	○	○		○
	一般（後期）		○		○
小論文	学校推薦型 私費外国人留学生		○		
	学校推薦型 私費外国人留学生		○	○	○
面接	学校推薦型 私費外国人留学生		○	○	○
	学校推薦型 私費外国人留学生		○	○	○
出願理由書	学校推薦型 私費外国人留学生		○	○	○
	学校推薦型 私費外国人留学生		○	○	○
調査書	学校推薦型	○			○
	私費外国人留学生	○	○		

※一般選抜（前期日程）、一般選抜（後期日程）においては調査書は、高大接続及び学力の3要素評価の観点から、総合判定時の資料として活用します。

教育学部

1 学部概要

教育学部は、教員養成の専門学部として、教育に関する理論的・実践的な力量、教育内容とその背景をなす諸学問の理解及び豊かな人間性・社会性を備え、地域の要請に応えつつ、教員としての意欲と高い使命感をもって教育に取り組むことができる教員の養成を目的としています。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学部共通》

(1) 知識・技能

- ・ 幅広い教養教育と教員になるための専門教育に主体的に取り組む基礎となる知識・技能を有する人

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・ 知識を活用し論理的に思考・判断する資質・能力を有する人
- ・ 多面的な考え方や協調性を尊重するとともに、自分の考えを表現できるコミュニケーション能力を有する人

(3) 学びに向かう力・人間性等

- ・ 学校教育に関わる種々の問題に関心を持ち、教員として社会に貢献する強い意欲を有する人
- ・ 豊かな人間性と子どもに対する深い愛情を有する人
- ・ 生涯学び続ける態度を有する人
- ・ 様々な課題に対し主体的に取り組むとともに、周囲の人々と協働して解決しようとする姿勢を有する人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《学部共通》

教育学部では、地域の要請に応えつつ、教員としての意欲と高い使命感をもって教育に取り組むことができる教員の養成を目的としていることから、できるだけ幅広い教科・科目について基礎的な内容を修得していることが望まれます。さらに得意な分野等については、より学習を深め、科目全般についての学習内容を理解し確かな知識・技能を修得していることが望まれます。また入学後の学習に必要とされる基本的な読解力と文章構成力を身につけていることが望まれます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、選抜区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

4 入学者選抜の基本方針

(1) 一般選抜（前期日程）

小学校教育コース・中学校教育コース（国語・社会・英語）・理数教育コース・特別支援教育コースでは、大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テストによって「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」を評価します。中学校教育コース（音楽・美術・保健体育）では、大学入学共通テスト及び実技検査によって「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を評価します。中学校教育コース（音楽・美術・保健体育）では、個人面接によって「学びに向かう力・人間性等」を中心に評価します。また、志願者評価書によって「学びに向かう力・人間性等」を有しているかを、運動歴調査書によって、運動技能を保有しているかを評価します。

(2) 学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課さない）

小学校教育コース（一般枠・「希望郷いわて」教員養成枠）・中学校教育コース（国語・英語）・理数教育コース・特別支援教育コースでは、小論文によって「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を評価します。

小学校教育コース（一般枠・「希望郷いわて」教員養成枠）・中学校教育コース（国語）・理数教育コース・特別支援教育コースでは、個人面接によって「学びに向かう力・人間性等」を中心として評価します。特に「希望郷いわて」教員養成枠では、岩手県の小学校教員を目指す強い意欲を評価します。また、中学校教育コース（英語）では、個人面接によって「学びに向かう力・人間性等」「知識・技能（英語の運用能力）」を中心として、評価します。出願理由は「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を中心に、面接で判定を行う際の資料として活用します（「希望郷いわて」教員養成枠では、活動実績報告書も含まれます）。調査書及び推薦書は「知識・技能」「学びに向かう力・人間性等」を中心に、面接で判定を行う際の資料として活用します。

（３）総合型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない）

実技検査によって「知識・技能」を中心に、「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を評価します。個人面接によって「学びに向かう力・人間性等」を中心に評価します。出願理由は「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を中心に、調査書は「知識・技能」「学びに向かう力・人間性等」を中心に、面接で判定を行う際の資料として活用します。また、運動歴調査書は、「知識・技能」を中心に、面接で判定を行う際の資料として活用します。

【小学校教育コース】

１ コース概要

小学校教育コースは、人間の成長過程で重要な位置を占める小学校段階の教育を主として担う教員の養成を目的としています。本コースでは、小学校教育に関わる教科指導と生活指導に関する専門的知識・技能及び実践的指導力に加え、小学校教育への使命感と豊かな人間性を持った教員を養成します。

２ 入学者に求める資質（求める学生像）《コース分》 ※学部共通項を参照

３ 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》

小学校教育コースにおいては、幅広い教科についての基礎学力が必要とされ、広い学びと深い学びを両立できる意欲と学力を有していることが望まれます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、選抜区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

【中学校教育コース】

１ コース概要

中学校教育コースは、特定の教科に関する専門性を備え、生徒の発達に応じて適切に指導できる中学校段階の教育を主として担う教員の養成を目的としています。本コースでは、教科に関する専門的な学力とともに、生活指導に関する専門的知識・技能及び実践的指導力を有し、中学校教育への使命感と豊かな人間性を持った教員を養成します。

２ 入学者に求める資質（求める学生像）《コース分》 ※学部共通項を参照

３ 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》

中学校教育コースにおいては、できるだけ幅広い教科についての基礎学力とともに特に専門とする教科についての深い関心と学力を有していることが望まれます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、選抜区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

【理数教育コース】

１ コース概要

理数教育コースは、子どもたちに理科・数学に関する確かな学力を身につけさせ、学ぶことの大切さを伝えるとともに、子どもたちの科学的な思考力や創造性を育成する理数教育の担い手として、小学校における理科・算数の教科リーダーとなる教員、また中学校における高い専門性を備えた理科・数学の教員を養成します。

２ 入学者に求める資質（求める学生像）《コース分》 ※学部共通項を参照

３ 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》

理数教育コースにおいては、できるだけ幅広い教科についての基礎学力とともに特に自然科学・数学分野における旺盛な探究心と学力を有していることが望まれます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、選抜区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

【特別支援教育コース】

1 コース概要

特別支援教育コースは、特別支援学校、特別支援学級、小学校・中学校等の通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする子どもに対して、主体的取り組みを支援する観点から教育的ニーズを把握し、適確に指導・支援できる教員を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《コース分》 ※学部共通項を参照

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》

特別支援教育コースにおいては、特別支援教育の基礎として前述の「小学校教育コース」または「中学校教育コース」と同等の能力を有していることが望まれます。加えて、特別支援教育への熱意、多様な子ども一人ひとりに寄り添うことができる感性を有していることが望まれます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、選抜区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

<別表>選抜に活用する評価方法とその評価項目

(1) 選抜に活用する内容

入学者選抜方法	該当選抜区分	選抜内容
小論文	学校推薦型	学校教育に関連する基礎的な「知識・技能」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を有しているかを評価する。
個人面接	一般（前期）・音楽 一般（前期）・美術 一般（前期）・保健体育 学校推薦型 総合型Ⅰ	学校教育に関連する基礎的な「知識・技能」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を有しているかを評価する。 学校推薦型選抜の中学校教育コース（英語）ではこれらに加えて「知識・技能（英語の運用能力）」を評価する。
実技検査	一般（前期）・音楽 一般（前期）・美術 一般（前期）・保健体育 総合型Ⅰ	教職を目指す者としてふさわしい「技能」を中心に、「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を有しているかを評価する。
志願者評価書	一般（前期）	高校時代の学業や課外活動の記録を通じて教職を目指す者としてふさわしい「学びに向かう力・人間性等」を有しているかを評価する。
運動歴調査書	一般（前期）・保健体育 総合型Ⅰ・保健体育	競技成績等の運動歴を通じて保健体育科教師としてふさわしい運動技能を保有しているかを評価する。
活動実績報告書	学校推薦型・小学校 （「希望郷いわて」 教員養成枠）	学校での教育活動のほか、学校外でのボランティア活動や、県・市町村の教育委員会や大学が主催するセミナー、オープンキャンパスなどの課外活動の実績を通じて、小学校の教師を目指す者としてふさわしい「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を有しているかを評価する。
出願理由書	学校推薦型 総合型Ⅰ	「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を中心に、個人面接で判定を行う際の資料として活用する。
調査書	学校推薦型 総合型Ⅰ	「知識・技能」「学びに向かう力・人間性等」を中心に、個人面接で判定を行う際の資料として活用する。
推薦書	学校推薦型	「知識・技能」「学びに向かう力・人間性等」を中心に、個人面接で判定を行う際の資料として活用する。

(2) 選抜に活用する内容の重点評価項目

学力の3要素・評価項目 選抜方法等		(1) 知識等	(2) 思考力等	(3) 主体性等
		知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
大 学 入 学 共 通 テ ス ト	一般（前期）	○	○	
教 科 ・ 科 目 に 係る個別テスト 〈教科〉	一般（前期）	○	○	
小 論 文	学校推薦型	○	○	○
個 人 面 接	一般（前期）・音楽 一般（前期）・美術 一般（前期）・保健体育 学校推薦型 総合型Ⅰ	○（*）	○	○
実 技 検 査	一般（前期）・音楽 一般（前期）・美術 一般（前期）・保健体育 総合型Ⅰ	○	○	○
志 願 者 評 価 書	一般（前期）			○
運 動 歴 調 査 書	一般（前期）・保健体育 総合型Ⅰ・保健体育	○		
活動実績報告書	学校推薦型・小学校 （「希望郷いわて」 教員養成枠）		○	○
出 願 理 由 書	学校推薦型 総合型Ⅰ		○	○
調 査 書	学校推薦型 総合型Ⅰ	○		○
推 薦 書	学校推薦型	○		○

（*）中学校教育コース（英語）では「知識・技能（英語の運用能力）」を評価する。

※一般選抜（前期日程）においては調査書は、高大接続及び学力の3要素評価の観点から、総合判定の資料として活用します。

理工学部

1 学部概要

我が国が目指す未来社会で必要とされる情報リテラシーと確かな専門性を併せ持ち、地球環境問題をはじめとする国際社会ならびに地域社会が抱える諸課題の解決に貢献できる理工系人材を育成します。

2 入学者に求める資質

<理工学部・理工学科共通>

【知識・技能】

- ・ 高等学校卒業にふさわしい一般基礎学力を修得しているとともに、より広い教養と深い専門性を身に付けたいという意欲を持つ人
- ・ 理工学分野の専門の学修を始めるのに必要な知識と技能を獲得している人

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・ 修得した知識と技能を組み合わせ、論理的な思考に基づく適切な判断ができるとともに、それを適切に他者に表現することができる人

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）】

- ・ 自らが選択する専門分野の学修に、主体的に取り組もうとする人
- ・ 大学での学びのなかで、広く社会との関わりに関心を持ち、積極的に多様な人々と協働しようとする人

<クリエイティブ情報コース（総合型選抜）>

【知識・技能】

- ・ 高等学校卒業にふさわしい一般基礎学力を修得しているとともに、情報デザインに強い関心を持つ人

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・ 修得した知識と技能を組み合わせ、創造的な思考・判断ができるとともに、それを他者に表現することができる人

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）】

- ・ 情報や情報技術について学んだことを主体的に活用しようとする人
- ・ 多様な価値観を理解し、様々な分野の人と協働しようとする人

<クリエイティブ情報コース（総合型選抜（女子枠））>

【知識・技能】

- ・ 高等学校卒業にふさわしい一般基礎学力を修得しているとともに、情報デザインに強い関心を持つ人

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・ 修得した知識と技能を組み合わせ、創造的な思考・判断ができるとともに、それを他者に表現することができる人

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）】

- ・ 情報や情報技術について学んだことを主体的に活用しようとする人
- ・ 多様な価値観を理解し、様々な分野の人と協働しようとする人
- ・ 理工学分野における女性の活躍の意義を理解し、社会の多様性を尊重しながら、積極的に他者と協働しようとする人

<電気電子・情報通信コース、機械知能航空コース（総合型選抜（女子枠））>

【知識・技能】

- ・ 高等学校卒業にふさわしい一般基礎学力を修得しているとともに、より広い教養と深い専門性を身に付けたいという意欲を持つ人
- ・ 理工学分野の専門の学修を始めるのに必要な知識と技能を獲得している人

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・ 修得した知識と技能を組み合わせ、論理的な思考に基づく適切な判断ができるとともに、それを適切に他者に表現することができる人

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）】

- ・ 自らが選択する専門分野の学修に、主体的に取り組もうとする人
- ・ 理工学分野での女性の活躍が社会的にもつ意義を理解し、社会の多様性を尊重しながら、積極的に他者と協働することを目指す人

<データサイエンス応用オープンクラス（一般選抜・前期日程）>

【知識・技能】

- ・ 高等学校卒業にふさわしい一般基礎学力を修得しているとともに、データサイエンスに強い関心を持つ人

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・ 修得した知識と技能を組み合わせ、創造的な思考・判断ができるとともに、情報系技術を活用してそれらを表現することができる人

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）】

- ・ データサイエンスについて学んだことを主体的に活用しようとする人
- ・ 多様な価値観を理解し、様々な分野の人と協働しようとする人

<地域協創ものづくりプログラム（総合型選抜）>

【知識・技能】

- ・ 工学を学ぶために必要な基礎的な学力を持つ人
- ・ ものづくりに対する経験を持つ人

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・ ものづくりを実践するために必要な思考力と判断力を持つ人
- ・ ものづくりを実践するために必要なコミュニケーション能力を持つ人

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）】

- ・ ものづくりに関心を持ち、独自技術を開発したいという意欲を持つ人
- ・ 地域課題に関心を持ち、主体性を持って協働できる人

<地域防災・まちづくりプログラム（総合型選抜）>

【知識・技能】

- ・ 防災・まちづくりに関する専門分野を学ぶうえで必要な基礎的な知識や技能を持つ人

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・ 災害に強い社会の実現のために、防災・まちづくりの専門分野に関連する課題を発見・探求できるような豊かな思考力を持ち、広い視野で適切に判断できる力を持つ人
- ・ 周囲とコミュニケーションを円滑にとることができる、必要な相手に防災・まちづくりの専門分野に関連する様々な内容を正確に表現し、伝えることができる人

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）】

- ・ 自然と調和しながらも災害に強い社会の構築のために、防災・まちづくりに関する様々な課題に関心を持ち、新しい課題を解決しようとする意欲を持つ人
- ・ 防災・まちづくりに関する様々な地域課題において、主体的に創造性豊かな発想ができ、マネジメント力を持つ人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容

- ・ 数学：「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学A」「数学B」「数学C」の内容の理解と数学的思考力（高等学校で修得していない科目がある場合は、入学後に理工学部が開講する高大連携科目の履修が必要となります。）
- ・ 理科：「化学基礎・化学」「物理基礎・物理」などの内容の理解と科学的思考力（化学コースへの進級を考えている方には、「生物基礎・生物」の内容も修得していることを期待します。）
- ・ 国語、英語：国際社会で活躍する人材の素養としての読解力、思考力、およびコミュニケーション能力
- ・ 情報：「情報Ⅰ」の内容の理解と情報活用能力
- ・ その他：教養のある豊かな人間性を育むために必要な地理歴史、倫理、政治経済、現代社会などの素養と社会事象に対する関心や探究心

4 入学者選抜の基本方針

(ア) 一般選抜（前期日程・後期日程）

入学後の教養教育・専門教育に対応できる知識とその展開力、および理工学部学生としての自然科学全般への俯瞰的視野を重視し、理科系・文科系にわたる幅広い知識と理数系に対する深い思考力および判断力を持つ人を総合的に選抜します。大学入学共通テストと教科・科目に係る個別テストで「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を評価し、調査書による「主体性・協働性」の評価と総合して選抜します。なお、データサイエンス応用オープンクラスでは、大学入学共通テストにおける情報Ⅰの成績を重視します。

(イ) 学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課さない）

口頭試問または基礎能力試験で主に「思考力・判断力・表現力等の能力」を評価し、調査書によって「知識・技能」「主体性・協働性」を評価し、個人面接による「関心・意欲」の評価も併せて総合的に評価します。選抜にあたっては専門分野への関心・意欲も重視します。

(ウ) 総合型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない）

・地域協創ものづくりプログラム

第1次選考は書類審査を行います。提出された自己推薦書・志望理由書により、「思考力・判断力・表現力等の能力」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」といった本プログラムで学ぶにふさわしい基本的な素養を評価します。調査書では大学での勉学の基礎となる「知識・技能」を評価します。第2次選考は面接とプレゼンテーションを行います。個人面接の口頭試問では「知識・技能」をより詳細に評価します。プレゼンテーションでは「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を重点的に評価するとともに「思考力・判断力・表現力等の能力」についても併せて評価します。

本選抜においては、工業に関する学科を卒業見込とする者も対象とし、各専門分野への強い関心と必要な基礎学力を持つとともに、「主体性のあるものづくり経験が豊富な学生」の受入を目的としています。

・地域防災・まちづくりプログラム

第1次選考は、調査書および自己推薦書を基に評価します。第2次選考は、面接（口頭試問を含む）およびプレゼンテーションを基に評価します。第1次選考と第2次選考の2段階にわたって「適性・構想力・論理的な思考力」、「意欲および一定以上の基礎学力」と「主体性・協働性」を重点的に評価し、防災・まちづくりに対するこれまでの活動の経験・実績、または興味・関心事項などを基に「表現力・情報収集能力・コミュニケーション能力」を総合的に評価します。

(エ) 総合型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）

・クリエイティブ情報コース

プレゼンテーション試験では、提出された調査書とプレゼンテーションにより「関心・意欲」及び「主体性・協働性」について評価するとともに、クリエイティブ情報コースで学ぶにふさわしい「表現力・コミュニケーション能力」を重点的に評価します。学力検査では、大学入学共通テストにより、クリエイティブ情報コースで学ぶにふさわしい「知識・技能」を評価します。選抜は、プレゼンテーション試験と学力検査の結果を総合的に判断します。

・電気電子・情報通信コースおよび機械知能航空コース

面接試験では、電気電子・情報通信コース、もしくは機械知能航空コースで学ぶにふさわしい「考察力・表現力・コミュニケーション能力」や、それぞれの専門を学ぶ上で必要とされる適性を評価します。また、岩手大学で学びたいことや、自身の将来像をふまえた志望動機について、論理的かつ明快に説明する能力により「関心・意欲」及び「主体性・協働性」について評価します。学力検査では、大学入学共通テストにより、電気電子・情報通信コース、もしくは機械知能航空コースで学ぶにふさわしい「知識・技能」を評価します。

(オ) 私費外国人留学生選抜

大学入学共通テスト及び本学が実施する教科・科目に係る個別テスト等を免除し、日本留学試験及び出願書類を総合して判定します。

(カ) その他（第3年次編入学試験）

高等専門学校や短期大学理工系学部を卒業，または，大学の理工系学部などの教育機関に2年次まで就学し，さらに高度な専門性を身に付けようとする意欲的な学生を求めます。学力試験（英語（外部検定活用），専門科目（筆記試験または口頭試問）または数学（筆記試験））および面接を総合して選抜します。なお機械知能航空コースでは在学中の成績の提出を求め，選考資料とします。

別表 選抜に活用する選抜方法の内容とその評価項目

(1) 選抜に活用する選抜方法の内容

入学者選抜方法	該当選抜区分	選抜内容
大 学 入 学 共 通 テ ス ト	一般（前期） 一般（後期） 総合型Ⅱ	筆記試験により「知識・技能」「思考力・判断力」「表現力」を評価します。
教科・科目に係る 個 別 テ ス ト	一般（前期） 一般（後期） 編入学試験	筆記試験により「知識・技能」「思考力・判断力」「表現力」を評価します。
個 人 面 接	学校推薦型 総合型Ⅱ 編入学試験	志望理由等について面接を行い，提出書類に関する確認を行います。理工系科学者・技術者として将来社会に貢献する意欲等も評価します。
個 人 面 接 (口頭試問を含む)	学校推薦型 総合型Ⅰ 編入学試験	面接および口頭試問により志望理由を確認するとともに，基礎学力を評価します。編入学試験においては，専門分野の学修に必要とされる専門知識を評価します。
基 礎 能 力 試 験	学校推薦型	高等学校等での学習内容に関する基礎知識や思考力を評価します。
プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	総合型Ⅰ 総合型Ⅱ	出題された課題に対するプレゼンテーションを通して，志望するコースやプログラムに対する「関心・意欲」「思考力・判断力」「表現力・コミュニケーション能力」「主体性・創造性・協働性」を総合的に評価します。
日 本 留 学 試 験	私費外国人留学生	日本語に関する基礎的能力を含めて「知識・技能」「思考力・判断力」「表現力」を評価します。
出 願 理 由 書・ 志 望 理 由 書	学校推薦型 総合型Ⅰ 私費外国人留学生	志望理由が，入学者受入の方針に合致しているかを評価します。
推 薦 書 ・ 自 己 推 薦 書	学校推薦型 総合型Ⅰ	専門の学修に対する適性と意欲について総合的に評価します。
調 査 書	一般（前期） 一般（後期） 学校推薦型 総合型Ⅰ 総合型Ⅱ	「主体性・協働性」について評価するとともに，総合判定の資料として活用します。
成 績 証 明 書・ 調 査 書	編入学試験 (機械知能航空コースのみ)	基礎学力を確認するために，成績証明書と調査書を用い，高等専門学校や短期大学等での生活状況（特別活動・指導上の参考となる諸事項等）を併せて総合的に評価します。
TOEIC Listening & Reading Test	編入学試験	英語の学力を評価します。

(2) 選抜に活用する選抜方法の重点評価項目（入学者選抜方法と求める学生像との関係性）

学力の3要素・ 評価項目 選抜方法等	該当選抜区分	(1) 知識等	(2) 思考力等		(3) 主体性等	
		知識・技能	思考力・判断力	表現力	関心・意欲	主体性・協働性
大 学 入 学 共 通 テ ス ト	一般（前期） 一般（後期） 総合型Ⅱ	◎	○			
教科・科目に係る 個 別 テ ス ト	一般（前期） 一般（後期） 編入学試験	◎	○			
個 人 面 接	学校推薦型 総合型Ⅱ 編入学試験			○	◎	○
個 人 面 接 (口頭試問を含む)	学校推薦型 総合型Ⅰ 編入学試験	◎	○	○	◎	○
基 礎 能 力 試 験	学校推薦型	○	◎	◎		
プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	総合型Ⅰ		◎	◎	○	○
	総合型Ⅱ		◎	◎	◎	◎
出 願 理 由 書・ 志 望 理 由 書・ (自己) 推 薦 書	学校推薦型			○	◎	○
	総合型Ⅰ				◎	○
	私費外国人留学生				◎	○
日 本 留 学 試 験	私費外国人留学生	◎	○			
調 査 書	一般（前期） 一般（後期） 学校推薦型 総合型Ⅰ 総合型Ⅱ	○	○	○	○	◎
成 績 証 明 書・ 調 査 書	編入学試験（機械知 能航空コースのみ）	◎	○			○
TOEIC Listening & Reading Test	編入学試験	◎				

※一般選抜（前期日程），一般選抜（後期日程）において調査書は，総合判定の資料として活用します。

農学部

1 学部概要

農学部は、幅広く深い教養と豊かな人間性を基礎として、農学の基盤である「食料」「生命」「環境」分野における、基礎的・応用的・統合的な専門知識と技能を修得することにより、地域および国際社会の食料・生命・環境の諸問題の解決に貢献できる人材の養成を目的としています。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学部共通》

(1) 知識・技能・理解

- ・ 農学の基盤である「食料」「生命」「環境」分野を学ぶに相応しい基礎学力を有する人

(2) 思考力・判断力・表現力

- ・ 農学分野に関する諸問題を全体的な視点から見出し、論理的にとらえ、探求する思考力と自らの意見をまとめ表現する能力を有する人

(3) 関心・意欲・態度

- ・ 学びで得た知識や経験、理論や技術を、明確な目的をもって農学および現実社会の諸課題の解決に生かす意欲のある人

(4) 主体性・協働性

- ・ 農学分野に関する諸課題を主体的に学ぶ積極性を持つとともに、創造性豊かな発想をもとに協働して学ぶことのできる人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《学部共通》

- ・ 理科、数学、情報：内容の理解と応用力
- ・ 英語、国語：基礎的な読解力、表現力、文章力
- ・ 地歴・公民：基礎的内容の理解

※ 具体的な履修要件や入試科目は、選抜区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

4 入学者選抜の基本方針 《学部共通》

(1) 一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストと教科・科目に係る個別テストで「知識・技能・理解」「思考力・判断力・表現力」を評価します。調査書で「関心・意欲・態度」「主体性・協働性」を評価します。

(2) 一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストで「知識・技能・理解」「思考力・判断力・表現力」を評価します。個人面接で「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲・態度」「主体性・協働性」を評価します。

(3) 学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課さない）

教科・科目に係る個別テスト（総合科目）で「知識・技能・理解」「思考力・判断力・表現力」を評価します。個人面接および出願理由書で「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲・態度」「主体性・協働性」を、調査書で「知識・技能・理解」を中心に総合的に評価します。

(4) 総合型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない）

教科・科目に係る個別テストおよび課題論文で「知識・技能・理解」「思考力・判断力・表現力」を評価し、個人面接で「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲・態度」「主体性・協働性」を評価します。出願理由書で「関心・意欲・態度」「主体性・協働性」を評価し、調査書で「知識・技能・理解」「関心・意欲・態度」「主体性・協働性」を評価します。

(5) 総合型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）

大学入学共通テストで「知識・技能・理解」「思考力・判断力・表現力」を評価します。個人面接および出願理由書で「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲・態度」「主体性・協働性」を評価し、調査書で「知識・技能・理解」を中心に総合的に評価します。

(6) 私費外国人留学生選抜

日本留学試験で、日本語力を含めて「知識・技能・理解」「思考力・判断力・表現力」を評価します。個人面接および出願理由書で「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲・態度」「主体性・協働性」を評価します。

【食料農学科】

1 学科概要

食料農学科では、人類の生存基盤である食料の生産とそれを基にした食品に関わる知識と技術の教育と研究を行い、地域・国際社会での食料生産、食品供給、健康分野における課題解決や新しい価値の創出を通じて、健康で持続的な食料と食品の生産・供給を担う人材を育成します。

2 コース概要

<農学コース>

農学コースでは、農作物の栽培技術の高度化とその生産基盤となる土壌の保全、植物の生産性・機能性の向上、品種開発、植物ウイルスを利用した先端技術の開発、食料安全保障を支える政策・戦略などに関わる教育・研究を通じて、持続的な食料生産のため農業および食品産業の問題解決に貢献できる人材を育成します。

<食品健康科学コース>

食品健康科学コースでは、食材や食品、その成分の物理的・化学的特性、高度な食品加工に関する知識や技術、食品、栄養および天然資源の健康機能性などに関わる教育・研究を通じて、国内外の食品産業の発展や超高齢社会において食を通じた人の健康に寄与できる科学的な知識と広い視野を備えた人材を育成します。

3 入学者に求める資質（求める学生像）

<農学コース>

(1) 知識・技能・理解・思考力・判断力・表現力

- ・ 農学および農学を取り巻く学問体系を学ぶのに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 農作物や農業生物を有益な資源として生かすために技術を学ぶのに相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・主体性・協働性

- ・ 持続的な食料の安定生産・供給を実現するための戦略・論理・技術を学ぶ意欲のある人
- ・ グローバルな視点から、農業および食品産業の抱える諸問題の解決に積極的に取り組む意欲のある人

<食品健康科学コース>

(1) 知識・技能・理解・思考力・判断力・表現力

- ・ 食品素材の特性の解明と応用を学ぶのに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 食品・栄養成分の体内での動きの解明とその健康への関わりを学ぶのに相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・主体性・協働性

- ・ 健康と食品機能について専門的知識を修得する意欲のある人
- ・ 食品・栄養成分、天然資源の化学的特性と生体利用の解明について専門的知識を修得する意欲のある人
- ・ 食や健康に関する課題に対応した高度な食品加工に関する知識と技術を修得する意欲のある人

【生命科学科】

1 学科概要

生命科学科では、生命科学、すなわち植物学・動物学・微生物学・健康科学など様々な学問の基礎的かつ共通部分における分子レベルでの知識と理解をベースに、様々な問題を解決し教育に展開することで、地球環境問題の解決、種の多様性の次世代への保存、健康寿命の延長など、次世代の諸問題の解決を先導できる人材を育成します。

2 コース概要

<分子生物機能学コース>

分子生物機能学コースでは、微生物、植物、昆虫、動物など様々な生き物の細胞や個体レベルで見られる多種多様な生物機能に関する分子レベルの解明を教育に還元することで、自ら発想し行動する力、独創性ならびに柔軟な対応力を養成し、グローバル化する社会でその力を発揮できる、自律性や判断力を持つ人材の養成を行います。

<分子生命医科学コース>

分子生命医科学コースでは、微生物から動物、ヒトに至るまでの生命現象を分子レベルで解明し、その知見を健康衛生、疾病の予防、再生医療技術などに生かし、人々の生活の質向上に寄与できる人材を育成します。

3 入学者に求める資質（求める学生像）

<分子生物機能学コース>

(1) 知識・技能・理解・思考力・判断力・表現力

- ・ 微生物、植物、昆虫、動物などの生物機能を学ぶのに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 生物機能の分子レベルでの解明と応用を学ぶのに相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・主体性・協働性

- ・ 生物機能に関する知識を修得し、実験、研究科目を学ぶ中で、自ら発想し行動できる人
- ・ 教育成果をベースにバイオテクノロジーのフロンティアを築くことができる人

<分子生命医科学コース>

(1) 知識・技能・理解・思考力・判断力・表現力

- ・ 生物多様性の重要性、感染症や疾患、老化現象を分子レベルで学ぶのに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 生命現象の分子レベルでの解明と応用を学ぶのに相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・主体性・協働性

- ・ 健康衛生、疾病の予防、再生医療技術などに生かし、人々の生活の質向上に寄与できる人
- ・ 生命科学に関わる諸問題に取り組み、活躍することができる人

【地域環境科学科】

1 学科概要

地域環境科学科では、持続可能な食と農の科学、地域生態系の保全、森林資源の管理と持続的な利用、持続的農業生産と環境管理、農業インフラの整備、スマート農業システムの導入、グリーントランスフォーメーションについて、地球環境問題とSDGs達成を念頭に置いた教育を介して、未来の農林業を担う人材を育成します。

2 コース概要

<革新農業コース>

革新農業コースでは、農業と食を切り拓く革新的な農業技術について総合的に学びます。これをもとに、グローバルな視点と高度な専門知識を備えて地域農業を先導するとともに、持続可能な食料・農業・農村システムの実現に向けた取り組みを通じてSDGs達成に貢献できる人材を育成します。

<森林科学コース>

森林科学コースでは、東北地域の恵まれた自然環境を背景として、森林の持つ多様な環境保全機能や樹木資源の生産と利用、自然生態系の保全・管理、防災を含めた幅広い分野について総合的に学びます。これをもとに、自然との共生関係を築きながら発展できる地域社会の実現に貢献する人材を育成します。

3 入学者に求める資質（求める学生像）

<革新農業コース>

(1) 知識・技能・理解・思考力・判断力・表現力

- ・ 農業生産インフラ整備と農村環境の保全、地域のネットワークづくりを学ぶのに相応しい基礎学力を有する人
- ・ スマート農業、次世代型食料システムの創出に関する知識と技術の修得に相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・主体性・協働性

- ・ 地域資源の適切な利用・管理と農村環境の保全、および地域振興について多面的に学ぶ意欲のある人
- ・ スマート農業、持続的な食料供給システムと資源の有効利用に関する最新技術を学ぶ意欲のある人

<森林科学コース>

(1) 知識・技能・理解・思考力・判断力・表現力

- ・ 森林科学を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 多様な機能を活かした森づくりと利用・保全に関する知識と技術の修得に相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・主体性・協働性

- ・ 多様な機能を発揮できる森づくりと林産資源の利用に必要な知識と技術を学ぶ意欲のある人
- ・ 里地里山を含む地域生態系の保全と管理および防災の方策について学ぶ意欲のある人

【動物科学・水産科学科】

1 学科概要

動物科学・水産科学科では、畜産物および水産物の生産と供給を担う2つの産業基盤を背景とした教育・研究を行うとともに、野生動物や海洋生物の生理・生態とそれらの有益な利用方法に関する知識および技術の教育・研究を行い、動物・水産資源の安定的な生産と供給、その高度利用に貢献する人材を育成します。

2 コース概要

<動物科学コース>

動物科学コースでは、産業動物生産（畜産）と野生動物の保護・管理に関する知識および技術に関する教育・研究を基盤とし、産業動物を中心に様々な動物種における生理機能の解明、遺伝的改良と増殖、飼料生産と栄養・飼養、および動物資源の有効利用などを通じて、人と動物が共生する豊かな地域社会の創造に資する人材を育成します。

<水産システム学コース>

水産システム学コースでは、水産業に関わる基礎的な知識や技術に関する教育・研究を基盤とし、水産資源の生産（漁獲、増養殖）から、加工、流通にいたる一連のシステムを体系的に教育し、釜石キャンパスを活用することで、三陸沿岸域の水産業の復興、わが国の水産業成長産業化に寄与できる人材を育成します。

3 入学者に求める資質（求める学生像）

<動物科学コース>

(1) 知識・技能・理解・思考力・判断力・表現力

- ・ 動物生産および動物科学に関する知識と技術の修得に相応しい基礎学力を有する人
- ・ 生命現象の解明と応用を学ぶに相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・主体性・協働性

- ・ 動物科学への強い関心を有し、課題の探求と解決に取り組む意欲のある人
- ・ 動物に関連した産業の諸問題の探求と解決に取り組む意欲のある人
- ・ グローバルな視点から、動物に関連した産業の持続的発展に積極的な意欲を有する人

<水産システム学コース>

(1) 知識・技能・理解・思考力・判断力・表現力

- ・ 水産資源の管理・生産、その利活用、流通・販売に関する学問領域を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 日本と世界の水産業の持続的発展の問題解決に必要な基礎的な思考・判断力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・主体性・協働性

- ・ 三陸地域の社会と水産業に関心を持ち、東日本大震災からの復興と水産業の課題に取り組む意欲のある人
- ・ 日本と世界の水産業の持続的発展の諸課題に関心を持ち、問題解決に取り組む意欲のある人
- ・ 高い倫理観を持ち、持続的水産業構築の諸課題について積極的に携わる態度を備えた人

<別表>選抜に活用する評価方法とその評価項目

(1) 選抜に活用する内容

入学者選抜方法	該当選抜区分	選抜内容
教科・科目に係る個別テスト ＜教科＞	総合型Ⅰ 一般（前期）	筆記試験により基礎学力について評価します。
教科・科目に係る個別テスト ＜総合科目＞	学校推薦型 編入学	文章を客観的に読解把握する力、内容に対する自らの考え方を述べる力、農学に関連する基礎学力について評価します。
個人面接	一般（後期） 学校推薦型 総合型Ⅰ・Ⅱ 私費外国人留学生	複数の面接担当者による個人面接を行います。
個人面接 （口頭試問含む）	編入学	複数の面接担当者による個人面接を行います。また、基礎学力を確認するために、口頭試問を行います。
課題論文	総合型Ⅰ	提示した問題・課題を通して、自然科学的創造型思考力を評価します。
出願理由書	学校推薦型 総合型Ⅰ・Ⅱ 私費外国人留学生	出願時に入学を希望する理由を本人が記入し、面接時に評価します。
調査書*	一般（前期） 学校推薦型 総合型Ⅰ・Ⅱ 編入学	学習の記録を中心に総合的に評価します。

(2) 選抜に活用する内容の重点評価項目

学力の3要素・評価項目 選抜方法等		(1) 知識等	(2) 思考力等	(3) 主体性等	
		知識・技能・理解	思考力・判断力・表現力	関心・意欲・態度	主体性・協働性
大学入学共通テスト	一般（前期） 一般（後期） 総合型Ⅱ	○	○		
教科・科目に係る個別テスト ＜教科＞	一般（前期） 総合型Ⅰ	○	○		
教科・科目に係る個別テスト ＜総合科目＞	学校推薦型 編入学	○	○		
課題論文	総合型Ⅰ	○	○		
個人面接	一般（後期） 学校推薦型 総合型Ⅰ・Ⅱ 私費外国人留学生		○	○	○
個人面接 （口頭試問含む）	編入学	○	○	○	○
出願理由書	学校推薦型 総合型Ⅰ・Ⅱ 私費外国人留学生			○	○
調査書*	一般（前期）			○	○
	学校推薦型 総合型Ⅰ・Ⅱ 編入学	○		○	○
日本留学試験	私費外国人留学生	○	○		

*一般選抜（後期日程）においては、調査書は、高大接続及び学力の3要素評価の観点から、総合判定の資料として活用します。

Ⅱ 募集人員

学部	学科・課程等		入学 定員	募集人員						備 考	
				一般選抜		学校推薦 型 選 抜	総合型選抜				
				前期日程	後期日程		I	Ⅱ	私費外国人 留学生選抜		
人文社会科学部	人 間 文 化 課 程		125	63	22	40			若干名		
	地 域 政 策 課 程		75	43	12	20			若干名		
	計		200	106	34	60			若干名		
教育学部	学校教育課程 学校教員養成課	小 学 校 教 育 コ ー ス	85	50		※1 35				※ 1 （ 学校推薦型選抜 ） 募集人員内訳 一般枠 20 「希望郷いわた」 教員養成枠 15 ※ 2 理数教育コース の入学者は、入 学後に小学校教 育専修か中学校 教育専修を選択 します。	
		中学校教育 コース	国 語 サ ブ コ ー ス	41	6		2				
			社 会 サ ブ コ ー ス		8						
			英 語 サ ブ コ ー ス		5		3				
			音 楽 サ ブ コ ー ス		3			2			
			美 術 サ ブ コ ー ス		3			2			
			保健体育サブコース		3			4			
		理 数 教 育 コ ー ス	数 学 サ ブ コ ー ス	24	8		※2 4				
			理 科 サ ブ コ ー ス		8		※2 4				
		特 別 支 援 教 育 コ ー ス		10	6		4				
	計		160	100		52	8				
理工学部	理工学科 ※3	化 学 ク ラ ス	424	38	12	10			若干名	※ 3 クラスとは初年次教 育における括りです。 ※ 4 総合型選抜Ⅱの入学 者は、クリエイティ ブ情報コースに進級 します。 募集人員内訳 一般枠 5 女子枠 5 ※ 5 地域協創ものづくり プログラムの募集人員 ※ 6 地域防災・まちづく りプログラムの募集 人員 ※ 7 女子枠の募集人員	
		数 理 ・ 物 理 ク ラ ス		22	4	4			若干名		
		材 料 科 学 ク ラ ス		29	9	7			若干名		
		情報系 クラス		知 能 情 報 コ ー ス	38	12	10		※4 10		若干名
				クリエイティブ情報コース	36	11	10	※5	※7 2		若干名
		電 気 電 子 ・ 情 報 通 信 ク ラ ス		44	14	16	5	※7 4	若干名		
		機 械 知 能 航 空 ク ラ ス		33	5	20	※6 5		若干名		
		社 会 基 盤 ・ 環 境 工 学 ク ラ ス		14							
		デ ー タ サ イ エ ン ス 応 用 オ ー プ ン ク ラ ス									
	計		424	254	67	77	10	16	若干名		
農学部	食 料 農 学 科	農 学 コ ー ス	30	20	3	4		3	若干名		
		食品健康科学コース	20	13	2	3		2	若干名		
	生 命 科 学 科	分子生物機能学コース	25	17	3	3		2	若干名		
		分子生命医科学コース	26	17	5	2		2	若干名		
	地 域 環 境 科 学 科	革 新 農 業 コ ー ス	37	21	4	7		5	若干名		
		森 林 科 学 コ ー ス	33	20	3	7		3	若干名		
	動 物 科 学 ・ 水 産 科 学 科	動 物 科 学 コ ー ス	35	20	3	7	5		若干名		
		水産システム学コース	20	10	3	5		2	若干名		
	計		226	138	26	38	5	19	若干名		
獣医学部	共 同 獣 医 学 科		30	18			※8 12	若干名	共同獣医学科の修 業年限は、6年です。 ※ 8 （ 総合型選抜Ⅱ ） 募集人員内訳 一般枠 10 地域枠 2		
	計		30	18			12	若干名			
合 計			1,040	616	127	227	23	47	若干名		

- ・教育学部の入学定員は学校教育教員養成課程 160 名ですが、入学定員欄にはコース毎の募集人員計を表示しています。
- ・農学部の入学定員は食料農学科 50 名、生命科学科 51 名、地域環境科学科 70 名、動物科学・水産科学科 55 名ですが、入学定員欄にはコース毎の募集人員計を表示しています。
- ・総合型選抜及び学校推薦型選抜の合格者が募集人員に満たない場合、その欠員補充は一般選抜で行います。

Ⅲ 出願要件・選抜方法等

大学入学共通テスト及び本学において実施する教科・科目に係る個別テストを免除する学校推薦型選抜を行います。

学校推薦型選抜に出願できる者は、合格した場合、入学を確約できる者となります。

※ 大規模災害等、予期せぬ事態が発生した場合、選抜方法を変更することがあります。

1. 人文社会科学部

(1) 出願要件

課 程 等	出 願 要 件	推 薦 人 数
人 間 文 化 課 程 地 域 政 策 課 程	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び令和9年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和9年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者。 ・調査書の全体の学習成績の状況が4.0以上の者	人間文化課程 1校4名以内 地域政策課程 1校2名以内

- ・推薦人数について、分校がある場合は、本校と分校をそれぞれ別の1校として扱います。
また、異なる教育課程（全日制課程・定時制課程・通信制課程）が併設されている場合は、それぞれの課程を別の1校として扱います。

(2) 選抜方法

課 程 等	選 抜 方 法
人 間 文 化 課 程 地 域 政 策 課 程	小論文、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。

(3) 選抜日程

受験者は、人文社会科学部の受験案内板を確認の上、8時30分までに（4）の試験場に集合してください。

（ⅩⅢ 建物配置及び試験場案内図参照）

年 月 日	課 程 等	選 抜 区 分	時 間
令和8年11月20日(金)	人 間 文 化 課 程 地 域 政 策 課 程	小 論 文	9:00 ～ 11:00
		面 接	12:00 ～

※ 受付は8時から開始します。

※ 面接は、受験者数によっては終了時刻が17時を過ぎる場合があります。自身の面接試験が開始するまでの待機時間中は、不正行為防止の観点から、携帯電話・タブレット端末等の電子機器類を使用することはできません。

なお、電子機器類を使用しない読書や自学自習は可能です。

(4) 試験場

人文社会科学部の試験場は次のとおりです。（ⅩⅢ 建物配置及び試験場案内図参照）

課 程 等	試 験 場
人 間 文 化 課 程 地 域 政 策 課 程	学 生 セ ン タ ー A 棟

(5) 入学後の専修プログラムの選択について

人文社会科学部の学生は入学後、自ら学びたいと考える主専修プログラムおよび副専修プログラムを2年次前期末に選択します。

主専修プログラムは、自分の所属する課程の専修プログラムから選択し、副専修プログラムは、主専修プログラムとして選択したプログラム以外から選択します。

(主専修プログラムに選択した専修プログラムを副専修プログラムに選択することはできません。)

●人間文化課程専修プログラム

国際文化 日本文化 現代社会共創 人間行動

●地域政策課程専修プログラム

政策法務 企業法務 地域社会経済 地域環境

●副専修専門プログラム※

地域社会連携

●課程横断型プログラム※

グローバル・地域人材育成

※副専修プログラムでのみ選択可能なプログラムです。

2. 教育学部

(1) 出願要件

課程・コース		出 願 要 件	推 薦 人 数
学校教育教員養成課程	小学校教育コース 一般 枠	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び令和9年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和9年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ・調査書の全体の学習成績の状況が4.0以上の者	1校3名以内 (※ただし、3名の内訳は次のとおりとします。 ・一般枠 2名以内 ・「希望郷いわて」教員養成枠 2名以内)
	小学校教育コース 「希望郷いわて」 教 員 養 成 枠	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び令和9年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和9年3月に修了見込みの者で、次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 調査書の全体の学習成績の状況が4.0以上の者 ② 岩手県内の小学校教員を目指す強い意欲を持つ者 ※出願者の出身地や居住地、出身高校の所在地等に制限はありません。	※「希望郷いわて」教員養成枠の志願者は、小学校教育コース一般枠を第二志望として併願することが可能です。ただし、併願の志願者数は、一般枠の推薦人数には算入されません。
	中学校教育コース 国語サブコース 英語サブコース	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び令和9年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和9年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ・調査書の全体の学習成績の状況が4.0以上の者	それぞれのサブコースで 1校1名
	理数教育コース 数学サブコース 理科サブコース		それぞれのサブコースで 1校1名
	特別支援教育コース		1校1名

- ・推薦人数について、分校がある場合は、本校と分校をそれぞれ別の1校として扱います。
- また、異なる教育課程（全日制課程・定時制課程・通信制課程）が併設されている場合は、それぞれの課程を別の1校として扱います。

(2) 選抜方法

課程・コース		選 抜 方 法 等
学校教育教員養成課程	小学校教育コース 一般 枠	小論文、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	小学校教育コース 「希望郷いわて」 教 員 養 成 枠	小論文、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書、活動実績報告書を総合して判定します。
	中学校教育コース 国語サブコース	小論文、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	中学校教育コース 英語サブコース	小論文、面接（英語による口頭試問を含む）、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	理数教育コース 数学サブコース 理科サブコース	小論文、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	特別支援教育コース	小論文、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。

(3) 選抜日程

受験者は、9時までに教育学部に集合してください。(XⅧ 建物配置及び試験場案内図参照)

年 月 日	課 程 ・ コース等		選 抜 区 分	時 間
令和8年11月20日(金)	学校教育 教員養成課程	小学校教育コース 中学校教育コース 国語サブコース 英語サブコース	小 論 文	9 : 30 ~ 11 : 30
		理数教育コース 数学サブコース 理科サブコース 特別支援教育コース	面 接	12 : 30 ~

※ 面接の終了時刻は、受験者数によっては17時を過ぎることもあります。

(4) 入学後のサブコース等の選択について

小学校教育コースの学生は、1年次後期からサブコースに所属し、各カリキュラムを履修することになります。サブコースは、国語、社会、英語、数学、理科、音楽、美術、保健体育、教育学、心理学、情報教育学、特別支援教育の12分野です。サブコースへの所属は各自の希望を優先しますが、人数の調整をすることがあります。

理数教育コースの学生は、入学者選抜の段階で所属するサブコース（理科あるいは数学）を決定します。学校推薦型選抜及び一般選抜によるいずれの入学者も、入学後一定期間を経て、学生の志望により小学校教育専修（小学校教員養成を主とする専修）か中学校教育専修（中学校教員養成を主とする専修）を決定します。

3. 理工学部

(1) 出願要件

理 工 学 科 全 ク ラ ス 共 通 事 項	出 願 要 件
	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を令和9年3月に卒業見込みの者（令和8年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による12年の学校教育を令和9年3月に修了見込みの者

学科・クラス		出 願 要 件	推 薦 人 数
理 工 学 科	化 学 ク ラ ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 化学分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上	1校3名以内
	数 理 ・ 物 理 ク ラ ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 数理科学・物理科学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎」の2科目及び「物理、化学」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学」の2科目	1校3名以内
	材 料 科 学 ク ラ ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 物質科学・材料工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎」の2科目及び「物理、化学」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学」の2科目	1校3名以内
	情 報 系 ク ラ ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 情報学分野（情報技術・知能情報・メディア情報・情報デザイン）の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、化学、理数化学、科学と人間生活」から1科目以上を履修している者	1校3名以内
	電 気 電 子 ・ 情 報 通 信 ク ラ ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 電気電子・情報通信工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、化学、理数化学、科学と人間生活」から1科目以上を履修している者	1校3名以内

学科・クラス		出 願 要 件	推 薦 人 数
理 工 学 科	機械知能航空クラス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 機械知能航空の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、理数化学」から1科目以上を履修している者	1校3名以内
	社 会 基 盤・ 環 境 工 学 ク ラ ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 社会基盤・環境工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上	1校5名以内

- ・推薦人数について、分校がある場合は、本校と分校をそれぞれ別の1校として扱います。
- また、定時制課程、通信制課程はそれぞれの教育課程から1名の推薦を認めます。

(2) 選抜方法

基礎能力試験または口頭試問、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。

基礎能力試験及び口頭試問の対象となる科目及びその範囲は以下のとおりです。また、出題内容は基礎的な内容とします。

学科・クラス		基礎能力試験及び口頭試問の対象となる科目及びその範囲
理 工 学 科	化 学 ク ラ ス	【基礎能力試験】 理 科：化学基礎
	数理・物理クラス	【基礎能力試験】 数 学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B、数学C 理 科：「物理基礎」か「化学基礎」 ※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。 数学Bの出題範囲は「数列」とします。 数学Cの出題範囲は「ベクトル」とします。 ※ 数理・物理クラスでは面接において、英語の学力を測るための質問をします。
	材 料 科 学 ク ラ ス	【基礎能力試験】 数 学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B、数学C 理 科：「物理基礎」か「化学基礎」 ※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。 数学Bの出題範囲は「数列」とします。 数学Cの出題範囲は「ベクトル」とします。
	情 報 系 ク ラ ス	【口頭試問】 数 学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B、数学C 情 報：情報Ⅰ ※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。 数学Bの出題範囲は「数列」とします。 数学Cの出題範囲は「ベクトル」とします。
	電 気 電 子 ・ 情 報 通 信 ク ラ ス	【基礎能力試験】 数 学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B、数学C ※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。 数学Bの出題範囲は「数列」とします。 数学Cの出題範囲は「ベクトル」とします。
	機 械 知 能 航 空 ク ラ ス	【基礎能力試験】 数 学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B、数学C 理 科：物理基礎 ※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。 数学Bの出題範囲は「数列」とします。 数学Cの出題範囲は「ベクトル」とします。
	社 会 基 盤 ・ 環 境 工 学 ク ラ ス	【口頭試問】 数 学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B、数学C 理 科：「物理基礎」か「化学基礎」 外国語：英語 ※ 数学Aの出題範囲は全範囲とします。 数学Bの出題範囲は「数列」とします。 数学Cの出題範囲は「ベクトル」とします。

(3) 選抜日程

受験者は、試験開始 30 分前までに理工学部集合してください。(XIII 建物配置及び試験場案内図参照)

年 月 日	ク ラ ス	選抜区分	時 間
令和 8 年 11 月 20 日(金)	化 学 ク ラ ス	基礎能力試験 (理 科)	10:00 ～ 11:00
		面 接	12:00 ～
	数 理・物 理 ク ラ ス 材 料 科 学 ク ラ ス 機 械 知 能 航 空 ク ラ ス	基礎能力試験 (数学・理科)	10:00 ～ 11:00
		面 接	12:00 ～
	電 気 電 子・情 報 通 信 ク ラ ス	基礎能力試験 (数 学)	10:30 ～ 11:00
		面 接	12:00 ～
	情 報 系 ク ラ ス 社 会 基 盤・環 境 工 学 ク ラ ス	面 接 (口頭試問を含みます)	12:00 ～

※ 受付は試験開始 1 時間前から開始します。

※ 11 時から 12 時までは各クラスの面接控室で昼食をとることが可能です。

※ 面接の終了時刻は、受験者数によっては 17 時を過ぎることもあります。

(4) 大学入学共通テストの受験について

大学入学共通テストは課しませんが、合格後の学習継続と本学入学後の学修に支障をきたさないために、大学入学共通テストを受験することを強く推奨します。

(5) 入学前教育について

理工学部では学校推薦型選抜合格者が高等学校から大学の教育内容に円滑に移行する事を目的として、学校推薦型選抜合格者全員を対象に入学前教育を実施します。具体的内容については学校推薦型選抜合格発表後に個別に通知します。

(6) 入学後のクラス、コースについて

2 年次進級時は、入学時のクラスに対応するコースへ進級します。

なお、情報系クラスについては、「知能情報コース」または「クリエイティブ情報コース」のいずれかを選択のうえ進級します。

4. 農学部

(1) 出願要件

学 科 等	出 願 要 件	推 薦 人 数
食 料 農 学 科 〔農 学 コ ー ス〕 〔食品健康科学コース〕 生 命 科 学 科 〔分子生物機能学コース〕 〔分子生命医科学コース〕 地 域 環 境 科 学 科 〔革 新 農 業 コ ー ス〕 〔森 林 科 学 コ ー ス〕 動 物 科 学 ・ 水 産 科 学 科 〔動 物 科 学 コ ー ス〕 〔水産システム学コース〕	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び令和9年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和9年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ・ 調査書の全体の学習成績の状況が4.0以上の者	それぞれのコース毎に1校3名以内

- ・ 推薦人数について、分校がある場合は、本校と分校をそれぞれ別の1校として扱います。
- また、異なる教育課程（全日制課程・定時制課程・通信制課程）が併設されている場合は、それぞれの課程を別の1校として扱います。

(2) 選抜方法

学 科 等	選 抜 方 法
食 料 農 学 科 〔農 学 コ ー ス〕 〔食品健康科学コース〕 生 命 科 学 科 〔分子生物機能学コース〕 〔分子生命医科学コース〕 地 域 環 境 科 学 科 〔革 新 農 業 コ ー ス〕 〔森 林 科 学 コ ー ス〕 動 物 科 学 ・ 水 産 科 学 科 〔動 物 科 学 コ ー ス〕 〔水産システム学コース〕	総合科目、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。

- ・ 総合科目では、数理的思考力、自然科学分野の基礎的理解度と論理的思考力、英文読解力等を評価します。
- ・ 個人面接では、農学部アドミッション・ポリシーに適合するかなどを総合的に評価します。面接での評価が著しく低い場合は、総得点に関わらず不合格とすることがあります。

(3) 選抜日程

受験者は、9時までに農学部集合してください。(XIII 建物配置及び試験場案内図参照)

年 月 日	学 科 等	選 抜 区 分	時 間
令和8年11月20日(金)	食 料 農 学 科 〔農 学 コ ー ス〕 〔食品健康科学コース〕 生 命 科 学 科 〔分子生物機能学コース〕 〔分子生命医科学コース〕	総 合 科 目	9:30 ～ 12:00
	地 域 環 境 科 学 科 〔革 新 農 業 コ ー ス〕 〔森 林 科 学 コ ー ス〕 動 物 科 学 ・ 水 産 科 学 科 〔動 物 科 学 コ ー ス〕 〔水産システム学コース〕	面 接	13:00 ～

※ 面接の終了時刻は、受験者数によっては17時を過ぎることもあります。

Ⅳ 受験上の注意

- (1) 「本学の受験票」は試験期間中必ず携帯し、係員の請求があった場合は、これを提示してください。
- (2) 試験場には駐車場はありませんので、公共の交通機関を利用してください。やむを得ず自家用車を利用する場合は、必ず有料駐車場を利用して、大学周辺の店舗等への無断駐車は絶対に行わないでください。
- (3) 試験場の下見は以下のとおりとしますが、建物の中に入ることはできません。

年 月 日	時 間
令和8年11月19日(木)	14～17時

- (4) 受験時には、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末（スマートウォッチやスマートグラス等）、電子辞書、ICレコーダー、イヤホン、音楽プレーヤー等の電子機器類の使用を認めませんので、必ず電源を切ってください。試験時間中に、これらをカバン等にしまわず身につけていたり手に持っていたりすると、不正行為となることがあります。
 - (5) 自然災害、悪天候等により、指示された時刻までに試験場に到着できない場合は、受験票に記載してある緊急時の問い合わせ先まで連絡してください。
 - (6) 試験開始時刻後30分以内の遅刻に限り、受験を認めますので、遅刻した場合は係員の指示に従ってください。ただし、面接以外の受験科目は試験時間の延長はしません。
 - (7) 試験場で不正行為を行った者や、監督者の指示に従わない者には退場を命じ、受験結果をすべて無効とします。
 - (8) 昼食は各自で用意し、試験室又は受験者控室で食事をしてください。
 - (9) 受験者の同行者用控室はありません。
- ※ 不正行為については、「Ⅴ 不正行為」も確認してください。

Ⅴ 不正行為

- (1) 次のことをすると不正行為となります。
不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を命じられ、それ以後の受験はできなくなります。また、受験した岩手大学入学試験のすべての成績を無効とします。
なお、不正行為については、必要に応じて追加的な確認を行ったり、警察へ被害届を提出する等の対応をとる場合があります。

- ① 出願書類、答案へ故意に虚偽の記入をすること。(写真票に本人以外の写真を貼ることや、答案に本人以外の名前・受験番号を記入する等)
- ② カンニングをすること。(カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わること等)
- ③ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- ④ 試験時間中に、問題冊子を試験室から持ち出すこと。
- ⑤ 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- ⑥ 「解答はじめ。」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- ⑦ 試験時間中に、定規(定規の機能を備えた鉛筆等を含む)、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具や、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末(スマートウォッチやスマートグラス等)、タブレット端末、電子辞書、ICレコーダー、イヤホン、音楽プレーヤー等の電子機器類を使用すること。
※ 通信機能のある電子機器類(携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末(スマートウォッチやスマートグラス等)、タブレット端末等)は、カバンの中にしまっていなければ、電源が切られていても、使用しているものとし、不正行為とします(衣類のポケット等に入れていた場合も、使用しているものとし、不正行為とします)。
- ⑧ 「解答やめ。鉛筆を置いて問題冊子を閉じてください。」等の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり、解答を続けること。

- (2) 上記(1)以外にも、次のことをすると不正行為となることがあります。指示に従わず、不正行為と認定された場合の取り扱いは、(1)と同様です。

- ① 試験時間中に、定規(定規の機能を備えた鉛筆等を含む)、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具やICレコーダー、イヤホン、音楽プレーヤー等の電子機器類、教科書、参考書、辞書等の書籍類をカバン等にしまわず、身につけていたり手に持っていること。
※ 通信機能のある電子機器類(携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末(スマートウォッチやスマートグラス等)、タブレット端末等)は、カバンの中にしまっていないければ、電源が切られていても、使用しているものとし、不正行為とします(衣類のポケット等に入れていた場合も、使用しているものとし、不正行為とします)。
- ② 試験時間中に、携帯電話や時計等の音(着信・アラーム等)を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
- ③ 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申し出をすること。
- ④ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ⑤ 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- ⑥ その他、試験の公平性を損なう恐れのある行為をすること。

Ⅵ 入試過去問題活用宣言について

本学は、「入試過去問題活用宣言」に参加しており、本学のアドミッション・ポリシーに基づき、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学の入試過去問題を使用して出題することがあります。

- (1) 「入試過去問題活用宣言」についての詳細及び参加大学の一覧は、次のウェブサイトで公表しています。

<https://www.nyushikakomon.jp>

- (2) 入試過去問題は、そのまま使用する場合も一部改変して使用する場合もあります。また、必ず使用するとは限りません。
- (3) 過去問題を使用した場合は、入学者選抜試験終了後、出典等を公表します。

Ⅶ 障がい等を有する入学志願者との事前相談

本学に入学を志願する者で、障がいあるいは疾病等により受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、令和8年9月25日(金)までに「事前相談について」(所定様式)を提出してください。「事前相談について」(所定様式)は、本学ウェブサイト(<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/general/handicapped.html>)からダウンロード、もしくは次ページ掲載の様式をご利用ください。

なお、必要により、本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行う場合がありますので、できるだけ早めに提出してください。

また、上記期限後に不慮の事故等により、受験上の特別な配慮が必要となった場合には、速やかに連絡してください。

提出先

岩手大学学務部入試課

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

岩 手 大 学 長 殿

年 月 日

氏 名
(志願者との関係)
住 所
電話番号 — —

事前相談について

下記により事前に相談したいので、関係書類を添えて提出します。

記

1 志願者氏名等

ふ り が な 氏 名	男・女	生 年 月 日	年 月 日 生
現 住 所	〒 —	電 話	— —
出 身 学 校 名		電 話	— —

2 志望学部等名

学部・学科等	学 部	学 科 課 程	コ ー ス ク ラ ス
出 願 区 分 (出願区分を○で囲む)	総合型Ⅰ	総合型Ⅱ	学校推薦型 私費外国人 前期日程 後期日程

3 障がいの種類・程度

4 受験上特別な配慮を希望する事項・内容

5 修学上特別な配慮を希望する事項・内容

6 出身学校在学中にとられていた特別な配慮

7 日常生活の状況

8 添付書類

- (1) 医師の診断書
- (2) その他

注1 出身学校関係者等が記入してください。

注2 6の「出身学校在学中にとられていた特別な配慮」については、詳細に記入してください。

注3 本用紙に書ききれない場合には、適宜別紙に記載しても構いません。

注4 医師の診断書等の書類は、写しで構いませんので、必ず添付してください。

注5 ※欄には記入しないでください。

※ 大学記入欄

Ⅷ 出願手続

1 出願方法

出願書類等を取りそろえ、**本学所定の出願書類等提出用封筒に入れて必ず「速達書留」で郵送してください。**「速達書留」はポスト投函では利用できませんので、必ず郵便局窓口で手続きしてください。持参による出願は認めません。

なお、**推薦する学校において一括して郵送する場合は**、名簿を添付し、1名ごとに所定の出願書類等提出用封筒に入れて、必ず「速達書留」とし、封筒の表に「**学校推薦型選抜出願書類等在中**」と朱書きしてください。

2 出願書類等提出先

岩手大学学務部入試課

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

3 出願受付期間（期限までに必着するよう、郵便事情を十分考慮して早めに送付してください。）

令和8年11月2日（月）から11月6日（金）まで【必着】

4 出願書類等

表中の「○」印の書類は本要項に同封している書類、「●」印の書類は本学ウェブサイトの「入試情報」→「学部入試」→「学校推薦型選抜」よりダウンロードして作成する書類です。

(URL <https://www.iwate-u.ac.jp/admission/undergraduate/info.html#gakkousuisen>)

書類等	記入方法等
○志願票	- 所定の用紙に志願者本人が記入してください。志願票は、電算処理されますので、汚したり折り曲げたりしないでください。 35ページ以降の記入要領を参照してください。
○出願理由書	- 所定の用紙に志願者本人が記入してください。 35ページ以降の記入要領を参照してください。
○写真票・ 受験票・ 入学検定料 納入確認票	- 所定の用紙に志願者本人が記入してください。 35ページ以降の記入要領を参照してください。 - 写真票には、写真（縦4cm×横3cm）を貼ってください。 検定料 17,000 円（非課税）（別途払込手数料がかかります。）を同封している所定の「払込取扱票」を使用し、必ずゆうちょ銀行又は郵便局の窓口で払い込んでください。（ATMは利用しないでください。） - 払込後、受け取った「振替払込受付証明書（お客さま用）」を日附印欄の押印を確認の上、所定の欄に貼ってください。 検定料は、出願書類受理後はいかなる理由があっても返還しません。 （補足）国立大学法人岩手大学のインボイス発行事業者としての登録番号は、T6400005002202です。 注）災害救助法適用地域における検定料免除措置については、32ページの「Ⅸ 検定料免除」を確認してください。
○ラベル票	- 所定のラベル票用紙の「① 出願受付用」及び「② 合格者通知用」は必ず記入してください。 35ページ以降の記入要領を参照してください。
○受験票送付用封筒	所定の封筒に志願者本人のあて先を明記し、410 円分の切手（速達料金）を貼ってください。
○推薦書	- 所定の用紙に推薦学校長が記入し、厳封したものを提出してください。 35ページ以降の記入要領を参照してください。 ※ 本学ウェブサイトより様式をダウンロードの上、電子媒体で作成したものを提出しても構いません。
調査書	- 推薦学校長が作成し厳封したものを提出してください。 - 高等専門学校第3学年修了者（見込みを含みます。）は、所定の調査書に準じて作成したものを提出してください。
●活動実績報告書	教育学部学校教育教員養成課程小学校教育コース「希望郷いわて」教員養成枠志願者は、本学ウェブサイトより様式をダウンロードの上、志願者本人が記入し、提出してください。様式3ページ目の記入要領を参照してください。
その他の書類	検定料免除を申請する者は、検定料免除申請書及び必要な書類を添えて提出してください。

5 出願書類等提出上の注意

- (1) 国公立大学の学校推薦型選抜への出願は、一つの大学・学部に限ります。したがって、本学の学校推薦型選抜へ出願する者は、他の国公立大学の学校推薦型選抜に出願することはできません。
- (2) 受理した出願書類等の返還及び記載事項の変更は認めません。
- (3) 出願書類等に次のような不備のあるものは受理しませんので、注意してください。
 - ① 記入漏れ、誤記入のあるもの
 - ② 検定料に不足のあるもの
 - ③ その他、提出すべき書類等が添付されていないもの
- (4) 出願書類の記入に当たっては、35 ページ以降の記入要領等を参照し、楷書で正しく明確に記入してください。
- (5) 出願書類等の提出後、現住所等の変更があった場合は、速やかに連絡してください。
- (6) 出願書類等に虚偽の記載があった場合は、入学決定後でも入学許可を取り消すことがあります。

6 受験票の送付

- (1) 出願書類を受理した後、受験番号を記載した受験票を送付します。
- (2) 受験票が、令和8年11月12日（木）を過ぎても到着しない場合は、岩手大学学務部入試課（☎ 019 - 621 - 6064）に問い合わせてください。

IX 検定料免除

岩手大学では、災害救助法適用の災害により被災した方が、経済的な理由により大学進学を断念することがないように、申請に基づき審査の結果、許可された方に対して**検定料の免除措置を講じます**。申請する方は、出願手続の際に一緒に申請手続を行ってください。

なお、申請手続をする場合は、本学ウェブサイト（<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/index.html>）を確認の上、岩手大学学務部入試課（☎ 019 - 621 - 6064）に問い合わせてください。

X 合格者の発表

合格者には郵便により合格通知書を送付するとともに、合格者の受験番号を次により発表します。

なお、推薦学校長には、すべての受験者の選考結果通知書を送付します。

（氏名は、慣用の字体又はカタカナで表記されている場合があります。）

合格発表の日時	方 法
令和 8 年 12 月 3 日(木) 13 時	本学ウェブサイトによる発表 https://www.iwate-u.ac.jp/

注1) 合格の問い合わせについては、一切応じません。

注2) 合格電報又は合格電話の受付を行っている者がいますが、これは岩手大学とは一切関係がありませんので注意してください。

XI 入学手続等の概要

入学手続等の概要は、次のとおりとし、詳細については、合格者に送付する「入学手続のしおり」で指示します。

1 入学手続締切期日

令和8年12月18日（金）【必着】

※ 入学手続締切期日までに入学手続を完了しなかった者は、入学を辞退した者として取り扱います。

2 入学関係書類

- (1) 「令和9年度大学入学共通テスト」受験票
- (2) 誓約書・個人情報等の取り扱いに関する同意書（所定の用紙）
- (3) 入学手続確認書
- (4) 学生証用カラー写真（縦4cm×横3cm）1枚
- (5) 入学料納入確認票
- (6) その他所定の書類

3 大学納付金

- (1) 入学料 282,000 円（予定額）非課税
- (2) 授業料 年額 535,800 円〔前期分 267,900 円 後期分 267,900 円〕（予定額）非課税

注1）上記納付金は予定額であり、入学時及び在学中に納付金額の改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額が適用されます。

注2）在学中の授業料の納入方法については、「入学手続のしおり」でお知らせします。

注3）入学手続後の入学料については、いかなる理由があっても返還しません。

注4）（補足）国立大学法人岩手大学のインボイス発行事業者としての登録番号は、T6400005002202 です。

4 入学料及び授業料の免除等制度

本学では、下記のとおり入学料及び授業料の免除等を実施しています。

詳細は本学ウェブサイト（<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/fee/exemption.html>）をご覧ください。

- (1) 高等教育の修学支援新制度による入学料免除と授業料免除

高等教育の修学支援新制度による入学料免除と授業料免除を実施します。

- (2) 入学料の徴収猶予

経済的理由によって入学料の納入が納入期限までに困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、入学前1年以内に、本人の学資を主として負担している者が死亡した場合又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合、その他やむを得ない事情があると認められる場合には、本人の申請（必要書類提出）に基づき選考の上、定められた期限まで徴収を猶予することがあります。

- (3) 特別な事情による免除

入学前1年以内に、本人の学資を主として負担している者が死亡した場合又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合、本人の申請（必要書類提出）に基づき選考の上、入学料や授業料の一部又は全額を免除することがあります。

5 その他の経費（令和8年4月現在）

- (1) 学生教育研究災害傷害保険（付帯賠償責任保険を含む）
学部4年間 4,080 円
- (2) 後援会、同窓会費等の諸会費（学部によって異なります。） 55,000 円～ 80,000 円

XII 合格者の留意事項

- (1) 本学の学校推薦型選抜に合格した者は、本学及び他の国公立大学を受験しても、その大学の合格者とはなりません。
- (2) 合格者に特別の事情があり、合格者を推薦した学校長が、令和9年2月17日（水）までに岩手大学長あてに「推薦入学辞退願」を提出し、その許可が得られた場合に限り、入学辞退を認めます。
入学辞退が許可された者は、本学及び他の国公立大学を受験することができます。
- (3) 入学手続締切期日に入学手続を完了しないときは、合格者としての権利を消失するとともに、本学及び他の国公立大学を受験しても合格者とはなりません。
- (4) 合格者は、入学又は入学辞退のいずれかの手続を行ってください。

XIII 他の入試への出願

本学の学校推薦型選抜に合格しなかった者は、本学及び他の国公立大学が実施する他の入学試験に出願することができます。（入学辞退を許可された者を含みます。）

ただし、本学の一般選抜前期日程及び後期日程を受験しようとする者は、改めて出願しなければなりません。（大学入学共通テストを受験する必要があります。）出願方法等の詳細は、令和8年11月下旬に公表予定の「令和9年度岩手大学一般選抜学生募集要項」で確認してください。

XIV 長期履修制度

職業を有しているなどの事情（注1）によって、修業年限である4年を超えて、一定の期間（最長6年まで）にわたり計画的に教育課程を履修し、卒業することを願い出た者には、審査の上許可することがあります。

この制度の適用学生の授業料総額は、修業年限（4年）で卒業する学生が納める授業料総額と同額となります。

なお、この制度の申請方法等は、合格者に別途通知します。

- 注1）該当者：① 職業を有している者（1日8時間週3日以上又は1日4時間週4日以上勤務者で6月以上の継続雇用者）
- ② 家事従事者又は育児にあたっている者
- ③ 前各号に該当しないが本人の収入で生計を維持している者
- ④ その他、本学が適当と認める者

注2）長期履修学生のための特別なカリキュラムは、原則として用意しません。

詳細については、岩手大学学務部学務課（☎ 019 - 621 - 6077）まで問い合わせてください。

XV 個人情報の取り扱い

個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「岩手大学個人情報管理規則」に基づいて取り扱います。

1. 出願に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報は、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続業務、④学生支援関係業務（奨学金案内・申請、学生寮案内等）を行うために利用します。
2. 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
3. 上記1及び2の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。

ついで、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部又は一部を提供します。

4. 国公立大学の一般選抜における合格決定業務を円滑に行うため、氏名、性別、生年月日、高等学校等コード、受験番号、大学入学共通テストの受験番号、合否及び入学手続に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送付します。
5. 出願に当たって知り得た個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収関係の業務を行うために利用します。

XVI 出願書類等の記入要領及び志願票記入例

志願票、出願理由書、写真票、受験票及び活動実績報告書（教育学部学校教育教員養成課程小学校教育コース「希望郷いわて」教員養成枠志願者）は、必ず志願者本人が記入してください。

出願書類等は、以下の記入要領等をよく読んで、**志願票はHBのシャープペンシル（0.5mm しん）で、志願票以外の用紙は黒のボールペン**で楷書で明確に、欄からはみ出さないように丁寧に記入してください。

ただし、※欄には記入しないでください。

誤って記入した場合は、修正液等は絶対に使用せず、以下の方法で修正してください。

- ① 志願票はプラスチック消しゴムで丁寧に消してから書き直してください。
- ② 志願票以外の用紙については、誤って記入した部分を二重線で抹消し、訂正印を押して、その上部余白に正しいものを記入してください。

1 志願票記入要領

- ◎ 志願票は、HBのシャープペンシル（0.5mm しん）を使用し、濃く、丁寧に枠をはみ出さないように「2 志願票の正しい書き方例」（以下正しい書き方例）（38 ページ）を参照しながら記入してください。記入を誤った場合は、プラスチック消しゴムできれいに消してから正しく書き直してください。

① 志望学部・学科等

志望する学部名、学科・課程（コース・クラス）名を記入してください。

なお、下記に該当する場合は、特記欄に次の内容についても記入してください。

対 象 者		特記欄記入内容
教育学部 学校教育教員養成課程	小学校教育コース（一般枠）志願者	「 <u>一般枠</u> 」と記入してください。
	小学校教育コース（「希望郷いわて」教員養成枠）志願者のうち、一般枠を併願しない者	「 <u>希望郷いわて</u> 」教員養成枠（ <u>専願</u> ）」と記入してください。
	小学校教育コース（「希望郷いわて」教員養成枠）志願者のうち、一般枠を併願する者	「 <u>希望郷いわて</u> 」教員養成枠（ <u>併願</u> ）」と記入してください。
	中学校教育コース志願者	「 <u>国語サブコース</u> 」もしくは「 <u>英語サブコース</u> 」と記入してください。
	理数教育コース志願者	「 <u>数学サブコース</u> 」もしくは「 <u>理科サブコース</u> 」と記入してください。
	特別支援教育コース志願者	特記欄に記入する必要はありません。

② 学部・学科等コード

志望する学部・学科等のコードは、学部・学科等コード表（39 ページ）の該当するコードを正しい書き方例（40 ページ）を参照しながら□の中に記入してください。

③ 受験科目

理工学部の数理・物理クラス及び材料科学クラスの志願者のみ記入してください。

④ 氏名

氏名（略字等は用いないでください。）を漢字とカタカナで記入してください。姓と名の間を1マスあけて、丁寧に記入してください。

なお、氏名の漢字は、電算処理のため、原則としてJIS第1水準及び第2水準の漢字で記入してください。本学では学籍管理上、コンピュータで表記できない（上記JIS規格以外）漢字については、類似する漢字に置き換え、もしくはひらがな表記にて登録します。

（例）「吉岡」→「吉岡」

⑤ 性別

該当する数字を正しい書き方例（38 ページ）を参照しながら□の中に記入してください。

⑥ 生年月日

生年月日を正しい書き方例（38 ページ）を参照しながら□の中に記入してください。数字が1桁の場合は、右欄に記入し、左欄には「0」（ゼロ）を記入してください。

⑦ 学校名

推薦する学校名を記入し、該当する文字を○で囲んでください。ふりがなは、ひらがなで記入してください。

⑧ 高等学校コード

本学ウェブサイト（<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/undergraduate/info.html>）に掲載している「高等学校等コード表」を確認の上、正しい書き方例（38 ページ）を参照しながら□の中に該当するコードを記入してください。

⑨ 学校所在地

推薦する学校の住所・電話番号を記入してください。

⑩ 高等学校等の課程・学科

該当する区分の数字を正しい書き方例（38 ページ）を参照しながら□の中に記入してください。学科が7（1～6以外の学科）の場合は、当該学科名を記入してください。

⑪ 志願者の略歴

高等学校等名、入学及び卒業（見込）年月を記入してください。

高等専門学校3年次（修了見込者）は、「1」を記入してください。

□の中に記入する数字については、正しい書き方例（38 ページ）を参照してください。

⑫ 連絡先

志願者及び保護者の住所・電話番号等を記入してください。

出願後、連絡先に変更が生じた場合は、すみやかに岩手大学学務部入試課に届け出てください。

電話番号は、本人と連絡が取れる番号を記入してください。

⑬ 志願票

志願票は、電算処理されますので、必ずHBのシャープペンシル（0.5mm しん）で記入してください。誤ってボールペン等で記入してしまった場合は、シャープペンシルでなぞったりはせず、気がついたところからシャープペンシルで記入してください。

志願票記入例

令和 9 年度岩手大学学校推薦型選抜志願票

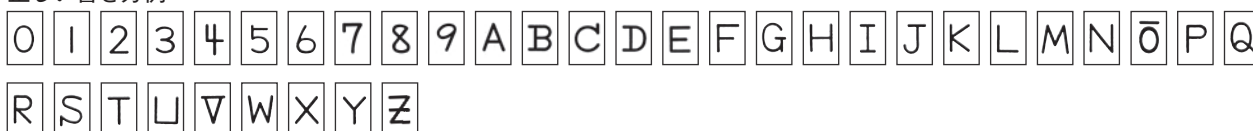
岩手大学の個人情報の取り扱いに同意し、志願します。

HB のシャープペンシル (0.5mm しん) で記入してください。

※大学記入欄		88		88 8888		
① 志望学部・学科等	教育		学 部	学校教育教員養成		学 科 課 程
	小学校教育		コース クラス	「希望郷いわて」教員養成枠 (専願)		
② 学部・学科等 コード	KA		③ 受験科目	理工学部の数理・物理クラス及び材料科学クラス志願者は、 基礎能力試験の理科において、受験を希望する科目に☑してください。 ☐ 物理基礎 ☐ 化学基礎		
※コードは募集要項 39 ページを確認してください。						
④ 氏 名	*姓と名の間を1マスあけ、丁寧に記入してください。 カ ナ ガンダイ タロウ 漢 字 岩大 太郎					
⑤ 性 別	1 男 2 女	1	⑥ 生年月日	2008 年 06 月 01 日		
⑦ 学 校 名	ふりがな 国 立 公 立 私 立	盛岡第七		⑧ 高等学校 コード	98765 C	
⑨ 学校所在地						
(〒020-8550) 岩手 都・道・府・県 盛岡市上田七丁目18番8号						
電話番号 (019)-(621)-(6885)						
⑩ 高等学校等の 課程・学科	1 全日制 2 定時制 3 通信制 4 その他					1
1 普通科 2 理数科 3 農業科 4 工業科 5 商業科 6 総合学科 7 1~6以外の学科						1
7の場合の学科名						
⑪ 志願者の略歴	2024 年 4 月 盛岡第七					1 卒業見込 2 卒業
2027 年 3 月 盛岡第七						1
⑫ 連 絡 先	志願者住所等					
ふりがな いわて けん もりおかし かいうんどおり						
(〒020-8550)						
岩手 都・道・府・県 盛岡市開運通1-2-3						
電 話 番 号 (019)-(621)-(6064)						
携帯電話番号 (090)-(△△△△)-(□□□□)						
保護者住所等						
ふりがな						
(〒 -)						
都・道・府・県 同 上						
電 話 番 号 (019)-(621)-(6064)						
携帯電話番号 (090)-(xxxx)-(□□□□)						
保 護 者 氏 名		岩大 銀河		志願者との続柄		父

2 志願票の正しい書き方例

正しい書き方例



- (1) 志願票は、次の要領で記入してください。
 - ・ ※印の欄は記入しないでください。
 - ・ 志願票の□の部分には、上記の「正しい書き方例」にならって丁寧に英数字を記入してください。
 - ・ 漢字は正しく楷書^{かいしよ}で、記入してください。
- (2) 志願票は、必ず、HBのシャープペンシル(0.5mm しん)で濃く丁寧に記入してください。
- (3) 志願票に記入する文字は、「正しい書き方例」によります。
これ以外の書き方では「光学式文字読取装置(OCR装置)」で読みとれませんので注意してください。
- (4) 誤って記入した場合は、プラスチック消しゴムで丁寧に消してから書き直してください。
- (5) 志願票は、絶対に折り曲げたり汚したりしないでください。
- (6) 志願票の記入事項と記号(英数字)の記入内容を必ず一致させてください。異なっている場合は、記号(英数字)を正しいものとして処理しますので注意してください。

3 出願理由書記入要領(黒のボールペンで記入すること。)

- (1) 提出日、志望学部・学科等名、出身学校名、志願者氏名を記入してください。教育学部小学校教育コース志願者は第一志望の枠を、中学校教育コース及び理数教育コース志願者はサブコースを記入してください。
- (2) 入学を希望する理由を志願者本人が記入してください。
- (3) 他人の助力によらず志願者本人が思考して作成してください。

4 写真票・受験票・入学検定料納入確認票記入要領(黒のボールペンで記入すること。)

太線枠内に、志願者氏名(ふりがなは、ひらがなで記入してください。)、志望の学部名を記入してください。
所定の位置に写真(縦4cm×横3cm)を貼ってください。
振替払込受付証明書(お客さま用)を日附印欄の押印を確認の上、所定の欄に貼ってください。

5 ラベル票記入要領(黒のボールペンで記入すること。)

① 出願受付用

学部・学科等コード、氏名(ふりがなは、ひらがなで記入)、出身学校の所在する都道府県名、学校名、卒業年(卒業見込みの者は、卒業見込みの年「2027」)を記入してください。

なお、学部・学科等コードの欄については39ページの学部・学科等コードを確認の上、記入してください。

② 合格者通知用

合格通知書を受け取る場所とし、郵便番号、住所、志願者氏名を記入してください。

6 推薦書記入要領

推薦学校長が記入してください。

「クラスでの成績順位」、「学年全体での成績順位」は、3年間の成績順位を記入してください。(コース等に分かれている場合は、コース等内順位及び()内にコース等名を記入してください。)ただし、卒業見込みの者の第3学年については、出願時の最新の順位を記入してください。

成績順位を算出していない場合は、その理由を所定の欄に記入し、科又はコース等名のみを()内に記入してください。

なお、推薦書は自筆による作成でなくても構いません。その場合は、本学ウェブサイトから様式をダウンロードして作成してください。

<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/undergraduate/info.html>

7 学部・学科等コード

学部	学科・課程等		コード
人文社会科学部	人間文化課程		JA
	地域政策課程		JE
教育学部	学校教員養成課程	小 学 校 教 育 コ ー ス	KA
		中学校教育コース	国 語 サ ブ コ ー ス
			英 語 サ ブ コ ー ス
		理数教育コース	数 学 サ ブ コ ー ス
			理 科 サ ブ コ ー ス
		特 別 支 援 教 育 コ ー ス	KM
理工学部	理 工 学 科	化 学 ク ラ ス	LA
		数 理 ・ 物 理 ク ラ ス	LB
		材 料 科 学 ク ラ ス	LC
		情 報 系 ク ラ ス	LD
		電 気 電 子 ・ 情 報 通 信 ク ラ ス	LE
		機 械 知 能 航 空 ク ラ ス	LF
		社会基盤・環境工学クラス	LG
農学部	食 料 農 学 科	農 学 コ ー ス	MA
		食 品 健 康 科 学 コ ー ス	MB
	生 命 科 学 科	分 子 生 物 機 能 学 コ ー ス	MC
		分 子 生 命 医 科 学 コ ー ス	MD
	地 域 環 境 科 学 科	革 新 農 業 コ ー ス	ME
		森 林 科 学 コ ー ス	MF
	動 物 科 学 ・ 水 産 科 学 科	動 物 科 学 コ ー ス	MG
		水 産 シ ス テ ム 学 コ ー ス	MH

XVII 教育実習に関する留意事項について

こども性暴力防止法（学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律）の施行により、令和8年12月25日より、こどもに対して教育・保育などを行う事業者には、性暴力を防ぐための取組が求められます。教育実習生にも性犯罪前科の有無の確認が求められる場合がありますので、留意点をお知らせします。

【対象】

- 教育学部入学志願者
- 教育学部以外の学部入学志願者のうち教員免許取得希望者

【教育実習に関する留意点】

- 事業者（教育実習を行う各学校）により性犯罪前科があると確認された者は、教育実習ができないこととなります。その場合、教員免許状の取得要件を満たすことができません。
- 教育学部の学生は、性犯罪前科がある場合、教育実習ができないことにより、卒業要件を満たせず卒業ができなくなる可能性があります。
- 本学では、適切な時期に同法に基づく教育実習に関する留意点への同意書等の提出を求めています。

【参考】

- 教育実習計画において、こどもと一対一になることが実習上予定されている、実習期間が相当長期にわたるなど、教育実習生がこどもに対して支配性、継続性及び閉鎖性を有する実習であると判断された場合、事業者（教育実習を行う各学校）が性犯罪前科の有無の確認を行う場合があります。
- 性犯罪前科の有無の確認が必要であると判断された場合、実習生本人よりこども家庭庁へ戸籍等の提出が必要となります。
- 性犯罪前科があると確認された者は、こどもと接する実習はできないこととなります。

○制度の詳細はこちらをご覧ください。

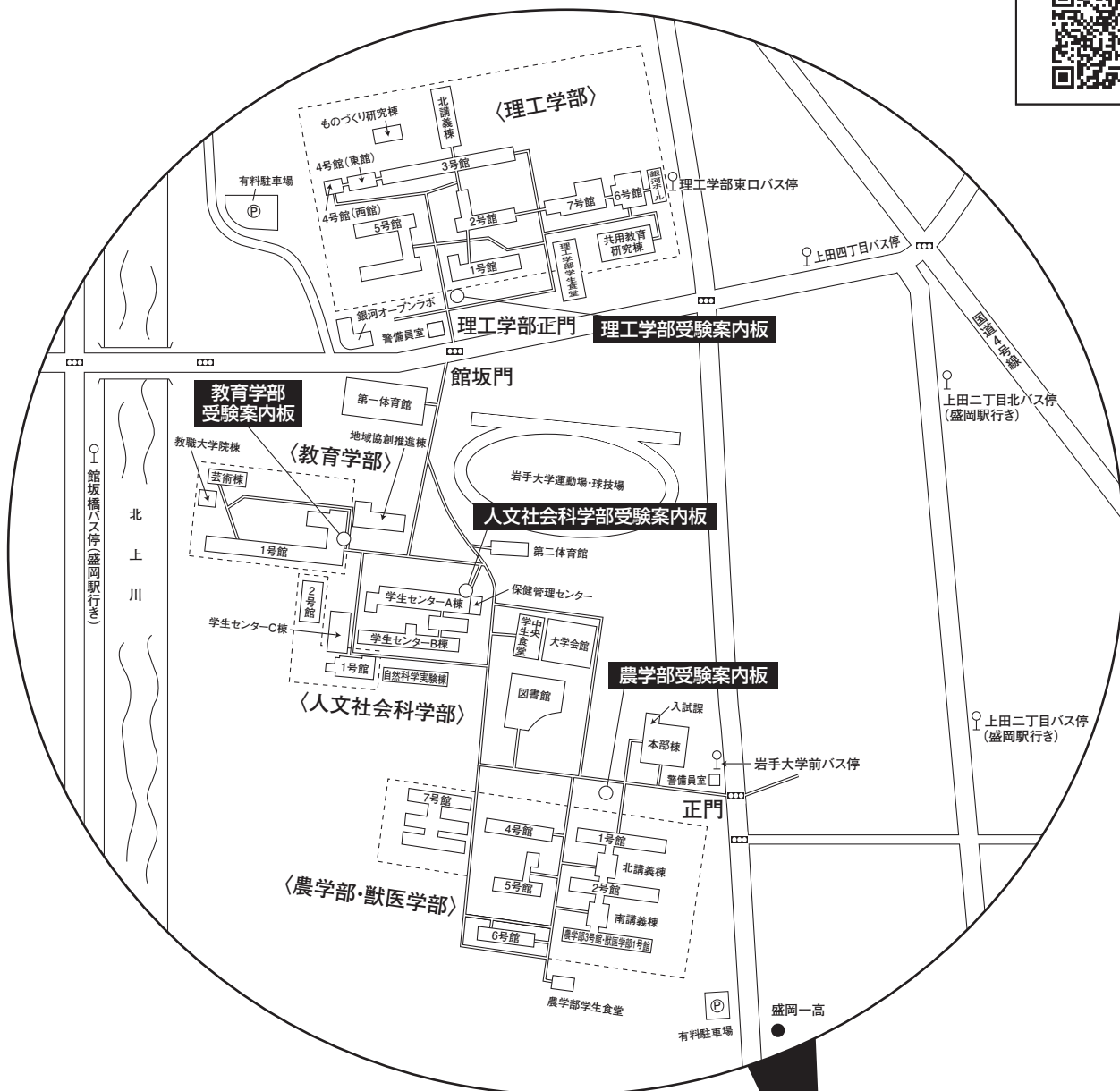
こども家庭庁ウェブサイト「こども性暴力防止法（学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律）」

リンク：<https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/efforts/koseibouhou>

※制度一般については、こども家庭庁にお問い合わせください。

XVIII 建物配置及び試験場案内図

キャンパスマップ
全体図はこちら



学 部	盛岡駅東口(バスターミナル11番のりば)からの交通機関
人文社会科学部	・岩手県交通バスの駅上田線 「松園バスターミナル行き」に乗りし「岩手大学前」で下車
教育学部	・岩手県交通バスの駅桜台団地線 「桜台団地行き」に乗りし「岩手大学前」で下車
農学部	・岩手県交通バスの駅上田線 「松園バスターミナル行き」に乗りし「上田四丁目」で下車
獣医学部	・岩手県交通バスの駅桜台団地線 「桜台団地行き」に乗りし「理工学部東口」で下車
理工学部	・岩手県交通バスの駅上田線 「松園バスターミナル行き」に乗りし「上田四丁目」で下車
	・岩手県交通バスの駅桜台団地線 「桜台団地行き」に乗りし「理工学部東口」で下車

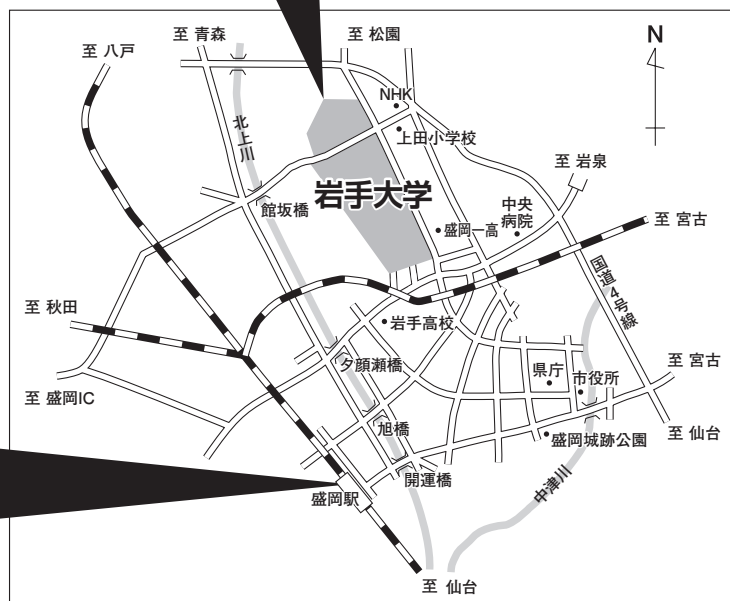
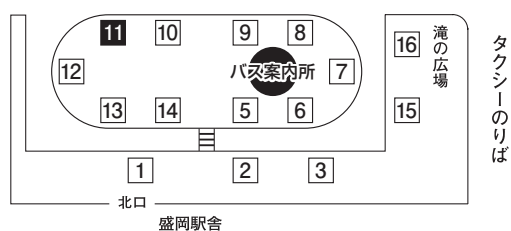
※本町・山岸・洞清水経由のバスには乗車しないでください。

注1) 盛岡駅から約2km、徒歩約30分です。

注2) タクシー利用の場合盛岡駅「タクシーのりば」から約10分です。

注3) 盛岡駅行き(帰り)のバス停については、上記の案内図を参照してください。

盛岡駅東口バスののりば案内図



岩手大学への各種問い合わせについては下記により行ってください。

問い合わせ時間等 月曜日から金曜日 8時30分から17時00分まで
※ただし、祝日、全学休業日（12/28～1/3）は除きます。

★入学試験に関すること

入学試験に関する問い合わせは、志願者本人が行ってください。

岩手大学学務部入試課 ☎019-621-6064

★奨学金（日本学生支援機構等）に関すること

岩手大学学務部学生支援課 ☎019-621-6062

★入学料徴収猶予及び入学料・授業料免除に関すること

岩手大学学務部学生支援課 ☎019-621-6506

☎019-621-6882

★学生寮に関すること

岩手大学学務部学生支援課 ☎019-621-6060

☎019-621-6749

★入学料及び授業料納入に関すること

岩手大学法人運営部経理課 ☎019-621-6031

岩手大学ウェブサイトアドレス <https://www.iwate-u.ac.jp/>